

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 The Power of ICT	第7期富士通グループ環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
-------------	-------------	---------------------	------------------	------------------	---------------------------	----------	------

事業所における温室効果ガス(GHG)排出量の削減・エネルギー効率の改善
 環境配慮データセンターの推進
物流・輸送時のCO₂排出量削減
 お取引先のCO₂排出量削減の推進
 再生可能エネルギー利用量の拡大
 水資源の有効利用
 化学物質排出量の抑制
 廃棄物排出量の抑制
 製品のリサイクル

物流・輸送時のCO₂排出量削減

富士通グループのアプローチ

国内外の広範な地域にグループ各社・事業所を有し、かつ数多くのお取引先から部材を調達している富士通グループにとって、物流・輸送に伴うCO₂排出量の削減は、継続的に取り組むべき重要なテーマです。

そこで富士通グループでは、これまで国内輸送に伴うCO₂排出量の削減を目標に取り組みを強化してきました。さらに第7期環境行動計画では、国内輸送のみならず海外域内輸送、国際輸送にも対象を広げ、グローバルに物流の合理化・効率化を進めていきます。また、サプライチェーン全体での物流に伴う環境負荷低減にも努めており、「富士通グループグリーン物流調達基準」をお取引先に提示するなど、お取引先とのパートナーシップを強化しながら共に活動を推進しています。さらに、物流プロセス全体での取り組みとして、製品や部品の包装における3R(Reduce・Reuse・Recycle)化にも注力しています。

2013年度の実績サマリー

第7期環境行動計画の目標 (2015年度末まで)	輸送における売上高当たりのCO ₂ 排出量を 4% 以上削減する。 (2011年度比)
2013年度目標	輸送における売上高当たりのCO ₂ 排出量を 2% 以上削減する。 (2011年度比)
2013年度実績	輸送における売上高当たりのCO ₂ 排出量を 32% 削減 (2011年度比)

取り組み概要

国内・海外・国際輸送それぞれで活動を推進

国内輸送では、モーダルシフトへの取り組みとして鉄道の効果的な活用や航空便輸送から陸上輸送への切り替えを進めました。また、納品時間指定の緩和や梱包箱のコンパクト化などによってトラックの積載効率を上げ、トラック台数の減少につなげました。

国際および海外域内輸送においても、モーダルシフト(航空輸送から海上輸送への切り替え)、輸送距離の短縮、コンテナ充填率の向上、航空輸送の輸送回数削減などを実施しました。

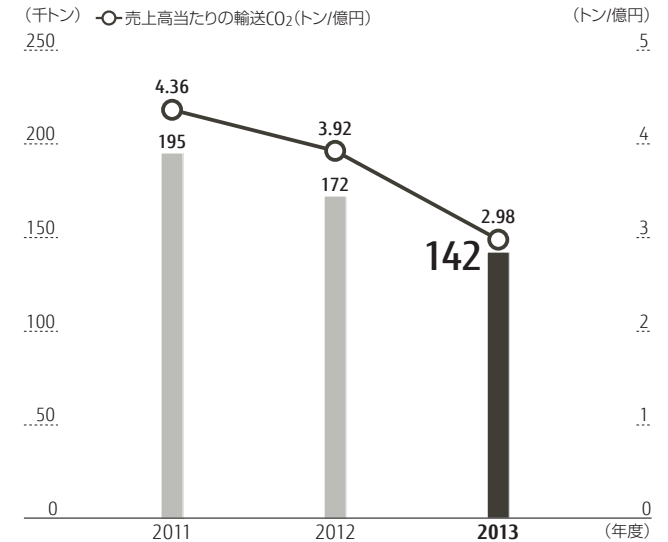
2013年度の実績

目標を大幅に上回る成果

2013年度の輸送CO₂排出量は、142千トンでした。その内、国内輸送に伴うCO₂排出量は、25千トン、国際輸送、および海外域内輸送で、117千トンでした。売上高当たりのCO₂排出量は2011年度比32%削減となり、第7期行動計画目標を大幅に達成しました。

主な要因は、国際輸送において、航空輸送から海上輸送への切り替えを拡大したこと(22%削減)や、算定に用いるGHGプロトコル係数の見直し(10%削減)によるものです。

輸送に伴うCO₂排出量の推移



2014年度の目標・計画

新たな目標を設定し活動を推進

2013年度の目標達成を受け、2014年度から2015年度までの目標を見直しました。

「輸送における売上高当たりのCO₂排出量を2013年度比年平均1%以上削減する」ことを新たな目標として設定し、富士通グループ全体でグリーン物流の活動を推進します。

Top Message	環境本部長インタビュー	特集 The Power of ICT	第7期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
-------------	-------------	---------------------	----------------------	------------------	--------------------	----------	------

事業所における温室効果ガス (GHG) 排出量の削減・エネルギー効率の改善
 環境配慮データセンターの推進
物流・輸送時のCO₂排出量削減
 お取引先のCO₂排出量削減の推進
 再生可能エネルギー利用量の拡大
 水資源の有効利用
 化学物質排出量の抑制
 廃棄物排出量の抑制
 製品のリサイクル

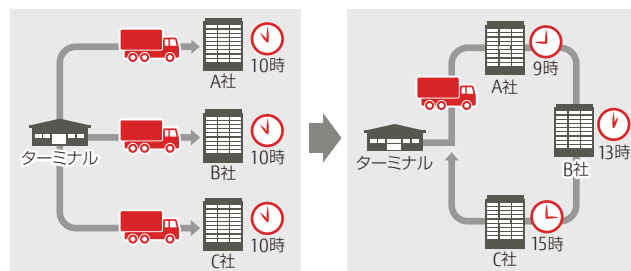
2013年度の主な活動報告

国内の出荷輸送における トラック台数の削減

富士通では、ネットワーク製品(基地局装置)の国内出荷輸送において、営業部門と連携し、お客様への納品時間を午前指定から当日指定へと緩和しました。これによってトラックの積み合せを促進し、トラック台数を削減することができました。

また、富士通アイソテック株式会社(福島県)と株式会社島根富士通(島根県)では、企業向けパソコンの納品時の時間指定を極力解除するようお客様に調整していただき、個別チャーター便による輸送を抑制しました。個人のお客様向けパソコンでは、お届けする時間帯を見直し、配送トラックの削減に努めました。

納品時間指定の緩和によるトラック台数の削減



モーダルシフトの推進と適用拡大

富士通グループでは、モーダルシフトによる輸送CO₂排出量の削減に取り組んでおり、鉄道輸送の効果的な活用や、航空便輸送から陸上輸送への切り替えを進めています。

2011年3月には富士通国内のモーダルシフト率(鉄道輸送利用率)15%以上を達成し、国土交通省と社団法人鉄道貨物協会が制定する「エコレールマーク取組企業」の認定を受けました。2013年も継続して認定を受けています。



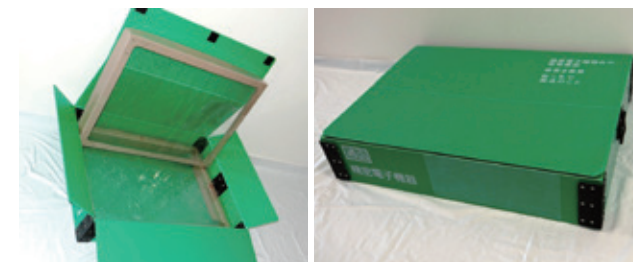
富士通テン株式会社では、中国工場と日本間の航空輸送を海上フェリー輸送に切り替えるなど、国際輸送でのモーダルシフトによる輸送CO₂削減に取り組んでいます。海上フェリー便は航空輸送よりも環境負荷が低いうえ、輸送コストも半分に抑えられます。また、通常の海上コンテナ輸送と比べて半分のリードタイムで輸送することができます。海上フェリー便の活用により、経済性と環境性を両立させた効率的な輸送を実現しました。

ダウンサイジングによる 包装資材の使用量削減

富士通グループでは、物流プロセス全体で環境負荷の低減を図るべく、製品や部品の包装における3R化を推進しています。

富士通アイソテック株式会社では、他機種と共有していたPCサーバの箱を専用化することでダウンサイジング化し、包装資材を削減しました。また、海外で製造されるODM(注)製ノートパソコンについても、箱のダウンサイジング化を実施し、段ボールや緩衝材などの使用量の削減に取り組みました。

(注) ODM: Original Design Manufacturerの略。他社ブランドで製品を設計から製造まで手がけること。なお、OEM (Original Equipment Manufacturer) は委託製造。



再利用可能なPCサーバ専用の箱(リターナブルコンテナ)